

## 平成 29 年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	書写指導実技講習会
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授・ 押木秀樹
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 上越国語教育連絡協議会 (担当者職名・氏名) 書写部会長・清水陽一郎 (瑞穂中学校教頭)
4 事業の趣旨・目的	<p>国語科書写教育は、単なる手本の模倣という時期から、学習要素を明確にし、児童・生徒の文字を生かす指導へと移り変わっている。この段階においても、教師の書写技能および評価能力 (朱筆添削等を含む) の高さは、学習者の意欲面および学習効果の点で重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>本講習会では、本学学生および上越地域の小中学校教員を対象とし、上越国語教育連絡協議会書写部会との共催により、教師の書写実技能力の向上を図ろうとするものである。</p>
5 事業活動報告	<p>下記の通り、実施した。参加者数は、上越地区の小中学校教員 24 名、中学校教員 10 名の計 34 名であった。</p> <p>日時 平成 29 年 7 月 26 日 (水) 13:20-16:30</p> <p>場所 上越市教育会館 大会議室</p> <p>日程 13:30・ 理論「文字の指導としての書写指導について」 押木秀樹 (本学)</p> <p>14:10・ 実技</p> <p style="padding-left: 40px;">小学校 3 年 江口彰子・月岡優子先生 4 年 笹川年子・市村菜穂子先生 5 年 市村康子・平井宏美先生 6 年 小林幸恵・丸山徳子先生</p> <p style="padding-left: 40px;">中学校 阿部浩・小林由希子・朝妻幸月先生</p> <p>16:20・ 講評・閉会</p>
6 本事業で得られた成果	<p>講師が書くところを見せる、また参加する教師の皆さんに実際に書いてもらうという点を重視している。その結果として、好意的な感想が得られた。また講師を中堅クラスの教諭が担当することで、すぐに生かせる内容であったといった高い評価が感想として得られている。</p> <p>例年、本学講 202 教室という、地域で唯一の書写実技がおこないやすい教室を使用して実施しているが、昨年に引き続き実施日の関係から使用することができず、上越市教育会館を使用した。実施日は、現場の先生方の日程からある程度絞られることから、来年度以降、慎重に計画していく必要がある。</p> <p>なお、今年度も会場決定の遅れなどもあって、学内での周知が十分できず、学内からの参加者がなかった。改善したい。</p>
7 その他 (成果物等の名称)	(講習会資料)

# 上越連書写指導実技講習会



平成 29 年 7 月 26 日 13:20~16:30

於 上越市教育会館 大会議室・中会議室

共催 上越教育大学地域貢献事業

上越国語教育連絡協議会

1 講師 ・上越教育大学教授 押木 秀樹 様  
 ・上国連本部書写委員 清水陽一郎・月岡優子・江口彰子・  
 笹川年子・市村菜穂子・市村康子・  
 平井宏美・小林幸恵・丸山徳子・  
 阿部浩・朝妻幸月・小林由希子

2 内容 **理論編**  
 「新学習指導要領における書写について」 押木 秀樹 様

**実技編**

上国連書写技能認定書き初め会の課題を用いた実技講習

- ・Aグループ……小学校3年生 ○月岡 優子・江口彰子
- ・Bグループ……小学校4年生 ○笹川 年子・市村菜穂子
- ・Cグループ……小学校5年生 ○市村 康子・平井宏美
- ・Dグループ……小学校6年生 ○小林 幸恵・丸山徳子
- ・Eグループ……中学校行書の書き方全般 ○阿部浩・小林由希子・朝妻幸月

3 日程 13:20 開会式 ①開式の言葉 ②上国連会長挨拶 ③講師紹介  
 ④講習内容等連絡 ⑤閉式の言葉

13:30 理論編開始

14:00 理論編終了 休憩 (実技編会場づくりを含む)

14:10 実技編開始 (途中休憩を含む)

16:10 実技終了 片付け

16:20 閉会式 ①開式の言葉 ②講師講評 ③書写委員長御礼  
 ④諸連絡 ⑤閉式の言葉

- 4 備考
- ・理論編終了後、該当コースの活動場所を作ります。ご協力をお願いします。
  - ・グループ別に本部書写委員がついています。どんどん質問をしてください。
  - ・仲間同士で大いに学び合しましょう。
  - ・必要に応じて、違うグループの話の聞いたり、書きに行ったりするなど、自由に動かれても結構です。
  - ・上教大地域貢献事業で書き初め用紙と墨汁を用意しました。ご利用ください。
  - ・上国連推奨大筆「習作」等は、会場にて購入可能です。
  - ・購入したペットボトルや持参した飲み物等を持ち込まれて結構です。
  - ・筆や硯は、会場の都合により、墨汁をよく拭き取って、ご自宅でお手入れをしてください。半紙等のごみは会場のごみ袋にお捨て下さい。
  - ・お帰りの際に、感想・アンケート用紙に当講習会の感想をお書きになり、受付テーブルにご提出くださいますよう、お願いいたします。

## 新学習指導要領における書写について

上越教育大学 押木 秀樹

### 1. 書写指導のねらい（解釈） と 近年の考え方

**国語科書写の目的（解釈）**

- （正しく、整えることで）
- 読みやすい字を
- 目的や必要に応じて＜効果的に＞
- 適切な速さで＜速く＞ 書く能力の育成

すべての手で書くことを、楽しく、気持ちよくできるように！

ぼくの書いたの見て！  
わたしの書いたの読んで！

※ 硬筆＋（小3～）毛筆

**例年の話**

手本を学ぶ  
手本で学ぶ

試し書き → より良い字のための法則性の理解

↓

自身の文字 の 確認  
課題の明確化（法則性の適応）

↓

練習（含：学習過程における評価等）

↓

まとめ書き → 他の字に生かす

手で書くことが好き、もっと書きたいという子どもに  
ノート・ワークシートだって、観察記録だって、書きたい子と、  
書きたくない子では、

- 個を否定しない授業（指導過程）であること
  - 「手本を学ぶ」から「手本で学ぶ」へ
- 応用の利く、役立つ学習内容であること
- 実技の楽しさに加え、知的好奇心を引き出す指導
  - 苦手な子でも、学習後に残る指導
- 目的・相手意識、考える書写の指導
- 良い動作・良いフォームの指導

筆を使うのも好きであってほしい

動作も私たちの大切な文化であり、それをよりよく学ぶための毛筆の学習が、いつまでも楽しいものであること。

### ※参考資料

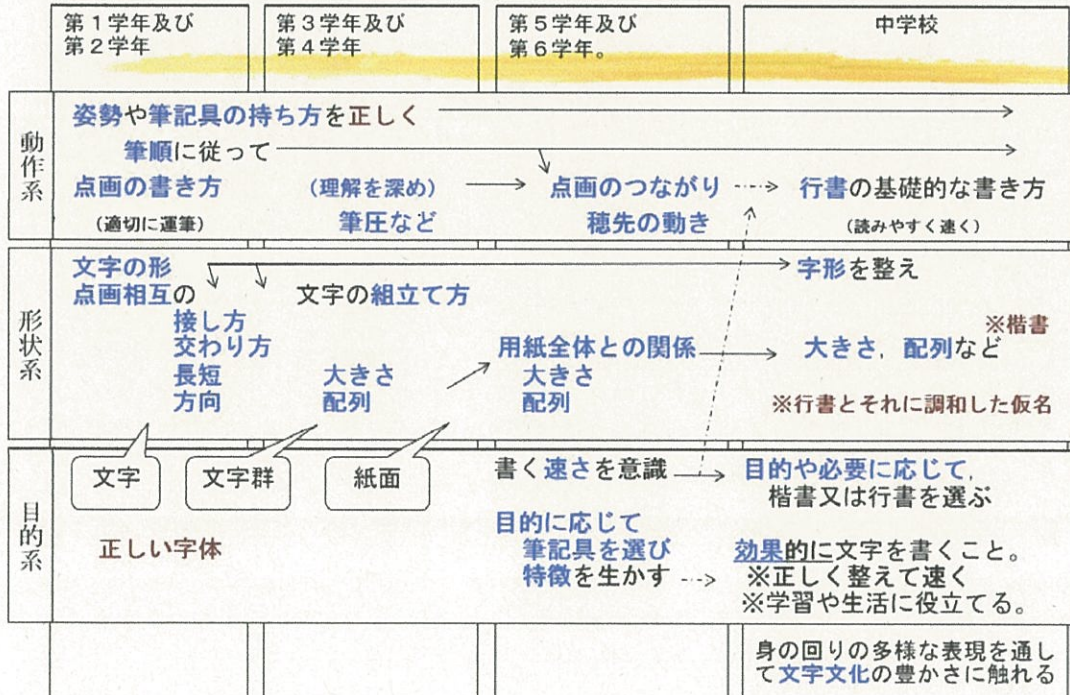
- ・ 新学習指導要領（平成 29 年 3 月 公示）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)  
 小学校学習指導要領解説  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1387014.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm)  
 中学校学習指導要領解説  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1387016.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm)
- ・ 「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」  
[http://www.bunka.go.jp/koho\\_hodo\\_oshirase/hodohappyo/2016022902.html](http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/2016022902.html)
- ・ 上越教育大学押木研究室 <http://www.shosha.kokugo.juen.ac.jp/>

平成 28 年度学習指導要領より 小学校・中学校の書写の部分

書写に関する次の事項について理解し使うこと。

<p>第 1 学年及び第 2 学年</p> <p>ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。</p> <p>イ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。</p> <p>ウ 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。</p>	<p>第 3 学年及び第 4 学年</p> <p>ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。</p> <p>イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。</p> <p>ウ 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。</p>	<p>第 5 学年及び第 6 学年</p> <p>ア 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。</p> <p>イ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p> <p>ウ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p>	<p>中学校〔第 1 学年〕</p> <p>ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。</p> <p>イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。</p> <p>中学校〔第 2 学年〕</p> <p>ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。</p> <p>イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。</p> <p>中学校〔第 3 学年〕</p> <p>ア 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。</p>
---	--	---	---

H28学習指導要領における 内容の構造(押木作成)



## H20←→H28学習指導要領の比較 1・2年

第1学年及び第2学年

ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。

イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

第1学年及び第2学年

ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。

イ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。

ウ 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。

読みやすく整った文字を効率よく書く為には、姿勢と筆記具の持ち方を正しくして書くことが必要である。  
・「姿勢と筆記具の持ち方は深く関連する。」

点画の書き方:動作(運筆)の問題

- 横画 縦画 左払い 右払い 折れ 曲がり そり 点
- 丁寧に書くこと:点画の始筆から送筆、さらに終筆までを確実に

点画の相互の...:字形(字体)の問題

- ※文字の形:主として概形の学習
- ※筆順:一般に通用している常識的なもの

## H20←→H28学習指導要領の比較 3・4年

第3学年及び第4学年

ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。

第3学年及び第4学年

ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

ウ 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。

点画の書き方

- 横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点など
- 始筆 送筆 終筆
- 毛筆による学習を通して点画や点画の書き方への理解を一層深めて
  - 点画やその書き方が毛筆を使用する中で定式化してきた

筆圧

- 払いのように筆圧を変化させて書くもの
- 横画のようにほぼ等しい筆圧で書くもの

## H20←→H28学習指導要領の比較 3・4年

第3学年及び第4学年

ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。

第3学年及び第4学年

ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

ウ 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。

「文字の組立て方」

- 左と右、上と下、内と外などの関係において一つの文字が組立てられるという仕組みを理解:部分相互の組立て方形を整えて
- 等間隔 対称 同一方向

大きさ

- 漢字と漢字:画数
- 漢字と仮名:仮名は小さめ
- 仮名と仮名

配列

- 書き出しの位置
- 行の中心
- 行間 文字間

## H20←→H28学習指導要領の比較 5・6年

第5学年及び第6学年

ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。

ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。

イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

第5学年及び第6学年

ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。

イ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。

ウ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

大きさ・配列

- 中学年までは、字間は均等、行の中心はそろえる、行間は均等 →
- 高学年では、用紙全体との関係から考えられる文字の位置、字間、行間などの効果的な在り方
- 見出しの文字を目立たせるといったような

速さを意識

- 書く場面の状況によって速さが決まってくることを意識
  - 聞き取りメモや板書の視写など
  - 自分の持ち物に名前を書く場面や目上の人に手紙を書く場面など
- ※中学校における行書の指導への橋渡し

## H20←→H28学習指導要領の比較 5・6年

第5学年及び  
第6学年

ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。

ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。

イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

第5学年及び  
第6学年

ア 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。

イ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。

ウ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

### 点画のつながり

- 点画から点画へ、更には、文字から文字へと移動していく過程に重点
- 無理なくつなげて書き進める効率よい書写のリズム

### 目的に応じて

- ◎手書きの習慣に関わる文字文化に関する事項
- 生活や学習活動において文字を書く様々な場面
- 全校児童に伝えるために大きく読みやすく書くことや、お世話になった人にお礼の気持ちを伝えるために丁寧に整った文字で書くことなど

### 筆記具を選び

- 鉛筆、フェルトペン、毛筆、ボールペン、筆ペンなど
- 筆記具全体の形状 書く部分の材質や形状 色など
- 横断幕 : 大きく書ける毛筆と書きやすい布

らり

## H28学習指導要領より 中学校

中学校〔第1学年〕

ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

中学校〔第2学年〕

ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

中学校〔第3学年〕

ア 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。

### 「目的や必要に応じて」

- メモやノート、届け出の書類、願書、会議録、ポスターや掲示物、はがきや封書、
- 書式 字形 書体 筆記具
- 読み手を意識・文字による表現や伝達の効果を高める

### 「文字文化」

- 上代～近現代まで実生活の中で使われている文字の文化
- 文字そのものの文化 : 文字の成り立ちや歴史的背景
- 文字を書くことの文化 : 文字の役割や意義、表現と効果、用具・用材と書き方との関係

### 身の回りの多様な表現を通し

※文字全般：手書き・活字・イラスト文字・デザイン文字

- 「文字文化の豊かさに触れ」
- 手書きすることの意義にて気付かせ
- 文字文化に関する認識を形成
- 主体的な文字の使い手
- 文字の芸術性に関心を向ける素地

### 効果的に文字を書く

- 文字の伝達性や表現性などを考えながら目的や必要に応じて書くこと
- これまでの総合

## H28学習指導要領より 中学校

中学校〔第1学年〕

ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

中学校〔第2学年〕

ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

中学校〔第3学年〕

ア 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。

社会生活における言語活動に必要な書写の能力を養うため、速く書くこと

行書の特徴を伝統的な文字文化として理解

- 点や画の形が丸みを帯びる
- 点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる
- 点や画が連続したり省略されたりする
- 筆順が変わる場合がある

「身近な文字を行書で書く」

- 行書の基礎的な書き方を理解し、学習や生活の中で使用頻度の高い語句などについて書くこと
- 身近な文字を書く活動に積極的に役立てるような、主体的な学習

「読みやすく速く書くこと」

- 言語活動に必要な書写の能力

## (小) 指導計画の作成と内容の取扱い

カ 書写の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。

(ア) 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。

書写のねらい

「文字を正しく整えて書くこと」

(イ) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。

(ウ) 毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単位時間程度を配当するとともに、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。

「学習や生活に役立てる」

- 学習した内容をノートに書いたり
- 調べたことを模造紙にまとめ
- 親しい人に手紙を書く
- 書き初め

(エ) 第1学年及び第2学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。

■我が国の伝統文化

■書写の能力が生活の中の様々な行事に生きていることを実感

## (小) 指導計画の作成と内容の取扱い

カ 書写の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。

- (ア) 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
- (イ) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。
- (ウ) 毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単位時間程度を配当するとともに、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。
- (エ) 第1学年及び第2学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。

### 「毛筆を使用する書写の指導」

- 日常生活における硬筆による書写の能力を高める基礎となる。
- 我が国の豊かな文字文化を理解し、継承、創造していくための基礎

## (小) 指導計画の作成と内容の取扱い 漢字指導と書写指導

エ 漢字の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。

- (ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。
- (イ) 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。
- (ウ) 他教科等の学習において必要となる漢字については、当該教科等と関連付けて指導するなど、その確実な定着が図られるよう指導を工夫すること。
- (エ) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。

## (小) 指導計画の作成と内容の取扱い

カ 書写の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。

- (ア) 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
- (イ) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。
- (ウ) 毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単位時間程度を配当するとともに、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。
- (エ) 第1学年及び第2学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。

### 「適切に運筆する能力の向上」

- 第1学年及び第2学年「点画の書き方...」の指導について
- 水書用筆等を使用した運筆指導
  - 早い段階から硬筆書写の能力を高めるため
  - 特性(水書用筆)
    - 扱いが簡便
    - 弾力性に富み
    - 時間経過で筆跡が消える
- 「点画」の始筆から、送筆、終筆(とめ、はね、はらい)までの一連の動作の練習
- 第3学年から始まる毛筆を使用する書写の指導への移行を円滑にする

## (小) 指導計画の作成と内容の取扱い 漢字指導と書写指導

「(エ) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。」

「常用漢字表の字体・字形に関する指針(報告)」(文化審議会国語分科会)においては、以下のような考え方が示されている。

・字体は骨組みであるため、ある一つの字体も、実際に書かれて具体的な字形となってあらわれたときには、その形は一定ではない。同じ文字として認識される範囲で、無数の形状を持ち得ることになる。

児童の書く文字を評価する場合には、こうした考え方を参考にして、正しい字体であることを前提とした上で、柔軟に評価することが望ましい。

一方、漢字の学習と書写の学習とを考えたとき、文字を書く能力を学習や生活に役立てるために、文字を正しく整えて書くことができるよう、指導の場面や状況に応じて一定の字形を元に学習や評価が行われる場合もある。

指導に当たっては、字体についての考え方を十分理解した上で、漢字学習の基礎を培うとともに、生涯にわたり漢字を円滑に運用できる能力を身に付けていくことができるよう配慮することが重要である。